

今治港ビジョン・デザイン

Resilient Port Imabari の実現へ向けて

Ⅲ 参考資料②

検討委員会の構成 各会の概要

～ 目 次 ～

I 今治港ビジョン・デザイン(提言)

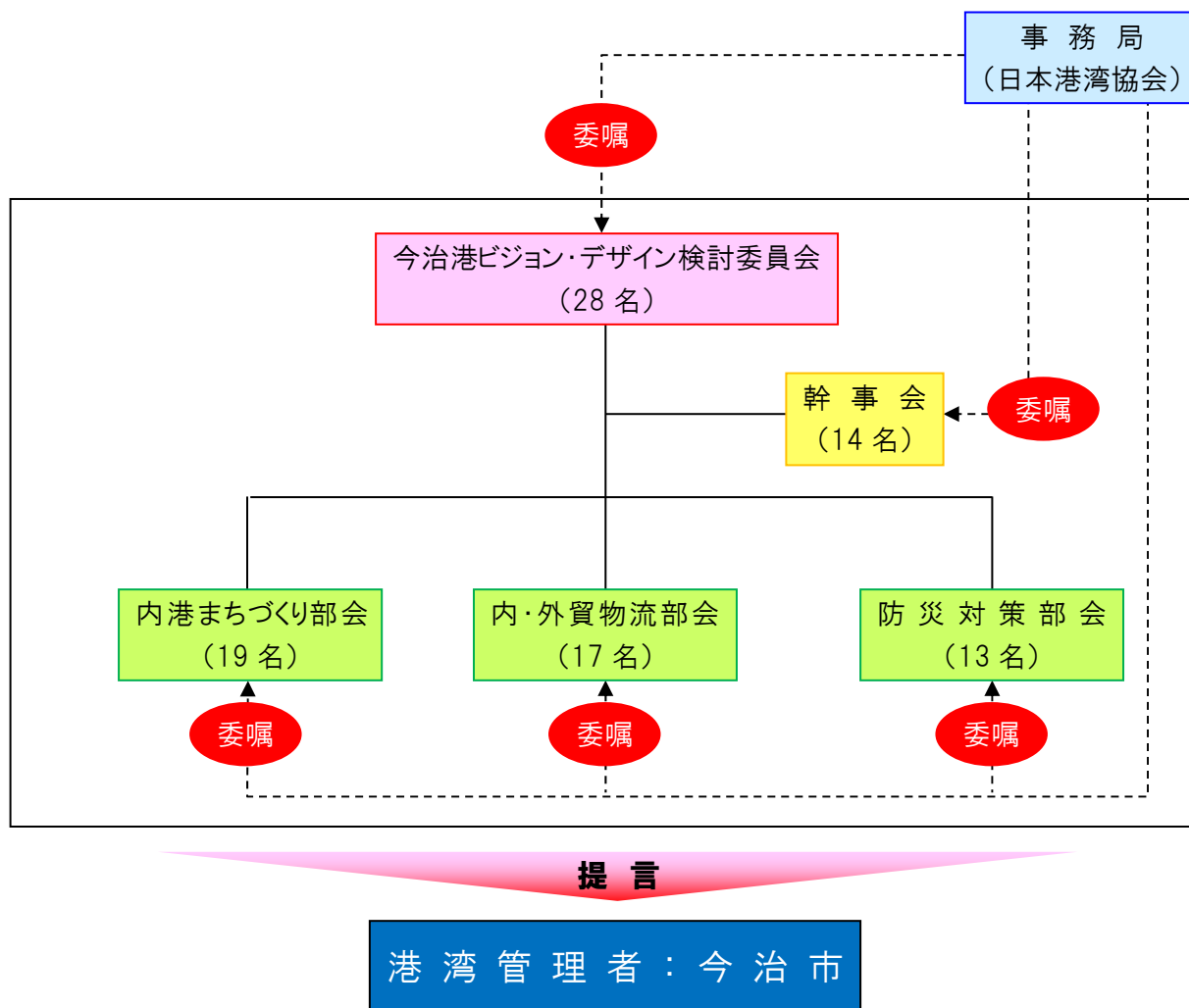
II 三部会での資料 統計関係 アンケート調査

III 検討委員会の構成 各会の概要

1	組織体制、経過、検討フロー	III- 1
1-1	組織体制	III- 1
1-2	経過	III- 7
1-3	検討フロー	III- 8
2	委員会での主な意見と対応策	III- 9
2-1	第1回委員・幹事合同委員会での主な指摘事項と対応	III- 9
2-2	第2回委員会での主な指摘事項と対応	III-11
2-3	第3回委員会での主な指摘事項と対応	III-12
3	専門部会での主な意見	III-13
3-1	各部会の総括	III-13
	総括 内港まちづくり部会	III-13
	総括 内・外貿物流部会	III-14
	総括 防災対策部会	III-15
3-2	各部会での主な意見	III-16
	内港まちづくり部会での主な意見	III-16
	内・外貿物流部会での主な意見	III-17
	防災対策部会での主な意見	III-18

1 組織体制、経過、検討フロー

1-1 組織体制



今治港ビジョン・デザイン検討委員会 委員名簿

(順不同・敬称略)

	氏名	所属	職名	摘要
委員長	金近 忠彦	公益社団法人日本港湾協会	理事	
委員	森 敏明	公益財団法人えひめ地域政策研究センター	所長	
委員	池田 弘子	株式会社人間科学研究所	代表取締役	
委員	柏谷 増男	愛媛大学	名誉教授	
委員	鈴木 茂	松山大学 経済学部	教授	
委員	原 映子	今治明德短期大学 ライフデザイン学科	教授	
委員	森 伸一郎	愛媛大学 大学院理工学研究科	准教授	
委員	村上 景一	今治商工会議所	会頭	
委員	河野 義光	今治漁業協同組合	代表理事組合長	
委員	宮内 裕治	今治港港運協会	会長	
委員	赤尾 宣宏	愛媛旅客船協会	副会長	
委員	瀬野 恵三	四国開発フェリー株式会社	副社長	
委員	森 恒雄	公益社団法人今治地方観光協会	会長	
委員	丹下 貴啓	社団法人今治青年会議所	理事長	
委員	渡邊 小百合	さくらんぼの会	会長	
委員	南條 高輝	今治市 PTA 連合会	会長	
委員	東島 義郎	国土交通省四国地方整備局 港湾空港部	部長	
委員	石原 洋 嶋倉 康夫	国土交通省四国運輸局 交通環境部	部長	人事異動
委員	及川 誠 栗谷 美則	第六管区海上保安本部 今治海上保安部	部長	人事異動
委員	延本 郁典	神戸税関 今治税関支署	支署長	
委員	玉井 秀昌	愛媛県 東予地方局 産業経済部	部長	
委員	杉浦 久夫 栗原 明彦	愛媛県 東予地方局 今治土木事務所	所長	人事異動
委員	長野 和幸	今治市	副市長	
委員	矢野 巧 渡辺 英徳	今治市 総務部	部長	人事異動
委員	胡井 裕志	今治市 総合政策部	部長	
委員	檜垣 達哉	今治市 産業部	部長	
委員	豊嶋 博	今治市 都市建設部	部長	
委員	阿部 宏	今治市 農水港湾部	部長	

上段は前任者

幹事会名簿

(順不同・敬称略)

	氏名	所属	職名	摘要
幹事長	東平 伸 香川 泰良	国土交通省四国地方整備局 松山港湾・空港整備事務所	所長	人事異動
幹事	玉石 宗生 種村 誠之	国土交通省四国地方整備局 港湾空港部 港湾計画課 国土交通省四国地方整備局 港湾空港部	課長 沿岸域管理官	人事異動等
幹事	近藤 伸弥	国土交通省四国運輸局 愛媛運輸支局 今治海事事務所	所長	
幹事	阿部 智 高木 大成	第六管区海上保安本部 今治海上保安部 警備救難課	課長	人事異動
幹事	加藤 嘉朗 高瀬 進	愛媛県 東予地方局 今治土木事務所 建設企画課	課長	人事異動
幹事	脇水 宏 岩井 誠司	愛媛県 東予地方局 今治支局 商工観光室	室長	人事異動
幹事	渡辺 英徳 渡邊 徹	今治市 総務部 総務調整課	課長	人事異動
幹事	渡邊 文夫 秋山 直人	今治市 総合政策部 企画課	課長	人事異動
幹事	三品 貴裕	今治市 総合政策部 市街地再生課	課長	
幹事	横山 正都 新居田 昌彦	今治市 産業部 商工労政課	課長	人事異動
幹事	二宮 浩	今治市 産業部 海事都市推進課	課長	
幹事	大澤 篤司	今治市 都市建設部 都市政策課	課長	
幹事	曾我部 通	今治市 農水港湾部 港湾建設課	課長	
幹事	北村 則男	今治市 農水港湾部 港湾管理課	課長	

上段は前任者

内港まちづくり部会 委員名簿

(順不同・敬称略)

	氏 名	所 属	職 名	摘 要
部会長	甲斐 朋香	松山大学 法学部	准教授	
委 員	安孫子 尚正	リージョナルデザイン株式会社	代表取締役	
委 員	谷川 昭司	公益財団法人えひめ地域政策研究センター	研究部長	
委 員	川上 昭一	今治市中心市街地再生協議会	会長	
委 員	赤尾 宣宏	愛媛旅客船協会	副会長	
委 員	河野 義光	今治漁業協同組合	代表理事組合長	
委 員	小林 明美	今治商工会議所 女性会	会長	
委 員	高須 泰裕	今治商工会議所	専務理事	
委 員	丹下 貴啓	社団法人今治青年会議所	理事長	
委 員	渡邊 小百合	さくらんぼの会	会長	
委 員	友田 康貴	今治商店街協同組合	副理事	
委 員	矢野 晴詩	今治地方観光旅館ホテル同業組合	代表理事長	
委 員	香川 泰良	国土交通省四国地方整備局 松山港湾・空港整備事務所	所長	
委 員	岩井 誠司	愛媛県 東予地方局 今治支局 商工観光室	室長	
委 員	三品 貴裕	今治市 総合政策部 市街地再生課	課長	
委 員	新居田 昌彦	今治市 産業部 商工労政課	課長	
委 員	二宮 浩	今治市 産業部 海事都市推進課	課長	
委 員	大澤 篤司	今治市 都市建設部 都市政策課	課長	
委 員	阿部 宏	今治市 農水港湾部	部長	

内・外貿物流部会 委員名簿

(順不同・敬称略)

	氏 名	所 属	職 名	摘 要
部会長	上羽 博人	松山大学 経営学部	教授	
委員	宮内 裕治	日本通運株式会社 今治支店	支店長	
委員	日野 文夫	今治商運株式会社	代表取締役社長	
委員	青野 賢治	青鬼運送株式会社	代表取締役社長	
委員	大澤 宅也	伊豫運送株式会社	代表取締役社長	
委員	小沢 正剛	株式会社吉忠本社	代表取締役社長	
委員	山本 岳史	吉野石膏株式会社 今治工場	工場長	
委員	野口 直幹	住友化学株式会社 愛媛工場	副工場長	
委員	小田 雅人	渦潮電機株式会社	代表取締役社長	
委員	木元 陽一 木元 裕行	伯方造船株式会社	代表取締役	代表者交代
委員	平尾 浩一郎 近藤 聖司	四国タオル工業組合	代表理事	代表者交代
委員	香川 泰良	国土交通省四国地方整備局 松山港湾・空港整備事務所	所長	
委員	延本 郁典	神戸税関 今治税関支署	支署長	
委員	岩井 誠司	愛媛県 東予地方局 今治支局 商工観光室	室長	
委員	神野 秀夫	今治市 産業部 企業立地推進課	課長	
委員	大澤 篤司	今治市 都市建設部 都市政策課	課長	
委員	阿部 宏	今治市 農水港湾部	部長	

上段は前任者

防災対策部会 委員名簿

(順不同・敬称略)

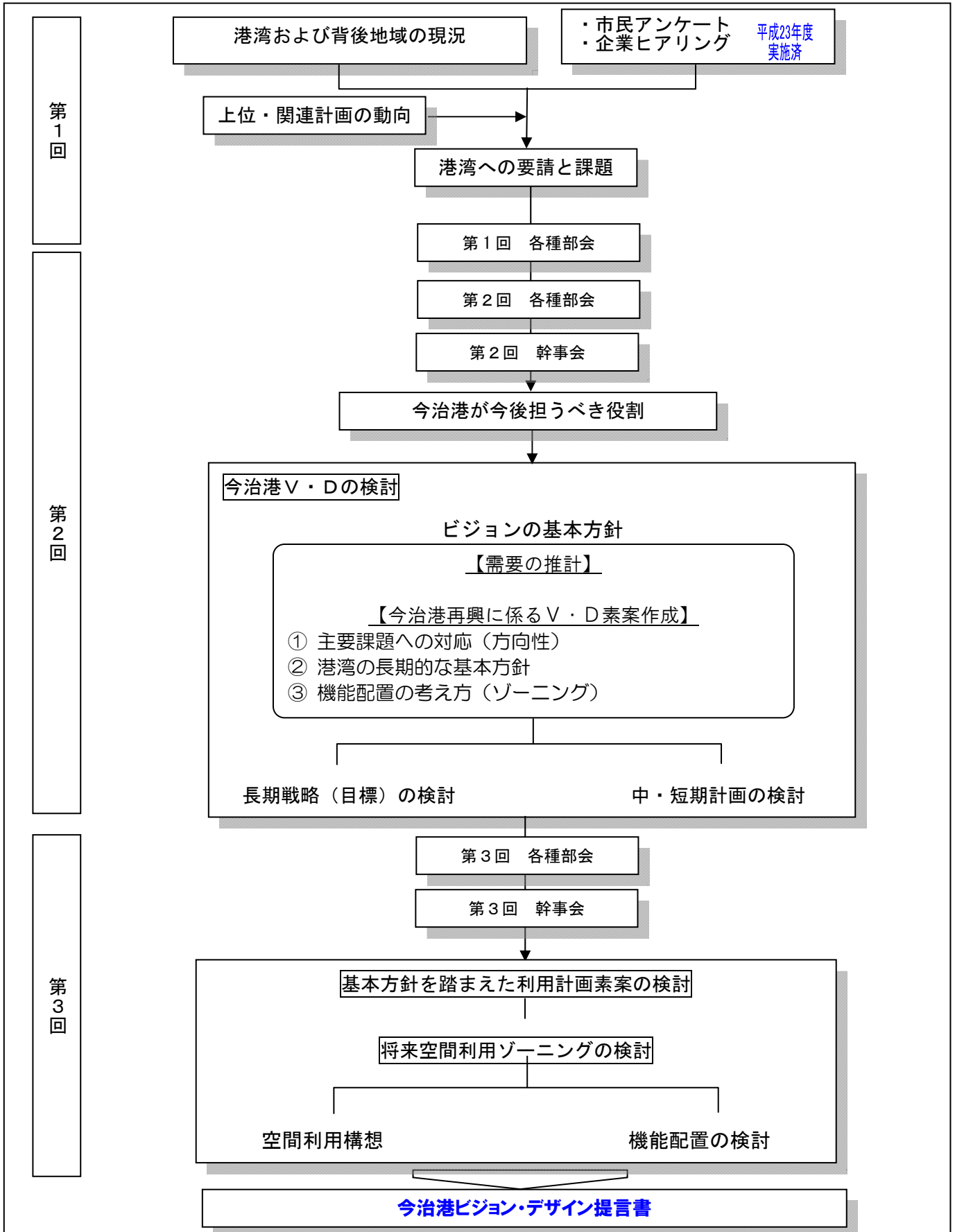
	氏 名	所 属	職 名	摘 要
部会長	森 伸一郎	愛媛大学 大学院理工学研究科	准教授	
委員	瀬野 恵三	四国開発フェリー株式会社	副社長	
委員	竹内 正彦	波方ターミナル株式会社 環境安全部	部長	
委員	白石 真	四国ガス株式会社 供給グループ	マネージャー	
委員	門田 大	今治地区トラック協会 今治支部	地区会長	
委員	大岩 義晴	アイエン工業株式会社	専務取締役	
委員	香川 泰良	国土交通省四国地方整備局 松山港湾・空港整備事務所	所長	
委員	高木 大成	第六管区海上保安本部 今治海上保安部 警備救難課	課長	
委員	高瀬 進	愛媛県 東予地方局 今治土木事務所 建設企画課	課長	
委員	金子 浩一	愛媛県 東予地方局 今治支局 総務県民室	室長	
委員	山崎 秀喜	今治市 総務部 防災危機管理課	課長	
委員	麻生 准一	今治市 消防本部 総務課	課長	
委員	阿部 宏	今治市 農水港湾部	部長	

1-2 経過

今治港ビジョン・デザイン検討委員会の開催経過

名 称		開催日	検 討 内 容
市民・企業アンケート調査		平成 23 年	今治港の物流・交流における利用の現状と利用向上を阻害している要因の究明
第 1 回委員・幹事合同委員会		平成 25 年 2 月 28 日	今治港に対する要請と課題
第 1 回 部 会	内・外貿物流部会	平成 25 年 5 月 28 日	貿易、物流面から見た今治港の現状と課題・要請の抽出
	防災対策部会	平成 25 年 6 月 7 日	防災面から見た今治港の現状と課題・要請の抽出
	内港まちづくり部会	平成 25 年 6 月 11 日	まちづくりの面から見た今治港の現状と課題・要請の抽出
第 2 回 部 会	内・外貿物流部会	平成 25 年 9 月 13 日	取扱貨物量を増加させるための方策
	防災対策部会	平成 25 年 9 月 25 日	災害時に今治圏域の港が担うべき役割を明確化
	内港まちづくり部会	平成 25 年 10 月 1 日	今治港～中心市街地までを活性化させるための方策
第 2 回幹事会		平成 25 年 10 月 17 日	行政的側面から第 2 回部会までの内容の妥当性整理、上位概念のつくり上げ・統合
第 2 回委員会		平成 25 年 11 月 7 日	今治港の基本方針、長期的な目標、中短期計画案の策定
第 3 回 部 会	内港まちづくり部会	平成 25 年 12 月 13 日	基本方針に沿ったアクションプランの検討
	防災対策部会	平成 25 年 12 月 19 日	基本方針に沿ったアクションプランの検討
	内・外貿物流部会	平成 25 年 12 月 20 日	基本方針に沿ったアクションプランの検討
第 3 回幹事会		平成 26 年 1 月 23 日	行政的側面から第 3 回部会までの内容の整理、基本方針、主要施策の妥当性の確認
第 3 回委員会		平成 26 年 2 月 27 日	今治港ビジョン・デザイン提言書の確認


1-3 検討フロー



2 委員会での主な意見と対応策

2-1 第1回 委員・幹事合同委員会での主な指摘事項と対応

第1回 委員・幹事合同委員会での主な意見と対応（1）

	主 な 指 摘 事 項	対 応 案
中心地の活性化に関する内容	<ul style="list-style-type: none"> 今治独自の歴史や景観、船などを活用した観光・港湾振興策、地域産業がタイアップする仕組みを検討していく必要がある。 大型旅客船を誘致し、まちを活性化させていく必要がある。 若い人が減っている中で、いかに人を集めるかが課題である。 港内に適正にプレジャーボートやヨットなど小型艇を配置することにより、景観の向上に向けた検討が必要である。 今治にビジネスで訪れる外国人をターゲットにした「ビジネスツーリズム」の検討が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 海から見た賑わい創出を検討する。クルーズ船の誘致も有効な手段であるため、施設・水域能力を含めて検討する。 集客については、中心市街地再生協議会みなと部会でも様々な取り組みを行っているので、連携を模索する。 放置艇の適正配置については、多面的な問題もあるが今後も検討を行う。 外国人のビジネス客に特化したデータ収集は困難である。 <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; background-color: #90EE90; padding: 10px; display: inline-block;"> <p style="text-align: center; margin: 0;">内港まちづくり部会を 設置し、そこで議論を深める</p> </div> </div>

第1回 委員・幹事合同委員会での主な指摘事項と対応（2）

	主 な 意 見	対 応 案
物流に関する内容	<ul style="list-style-type: none"> ・今治市の製造品出荷額などが増えている一方、今治港の取扱貨物量が減少している原因を分析し、産業構造に見合った港湾整備が必要である。 ・造船業・タオル産業といった今治の二大産業の競争力の回復が不可欠である。 ・材料の品質低下を抑制する施設整備が必要である。 ・荷主の今後のニーズを的確に読み取り利用に結びつけられる方策の検討が必要である。 ・現状の富田ふ頭の規模では中途半端である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取扱量が回復しない要因、圏域の産業・利用客のニーズをしっかりと把握し、今治港を利用しながら背後の産業の競争力が強くなる方策を検討する。 ・タオルの一部は原料を一旦関西の港で降ろし、そこからフェリーを利用して運んでいるので、現状を把握し、今治港の利用につなげていきたい。 ・鋼材の性質上潮風にさらすことは品質確保の観点からは良くないため、利用者のニーズを把握しながら今後の対応を検討する。 ・富田ふ頭については、利用客の要望や今後の貨物の動向も勘案しながら規模や対応策を検討する。 <div data-bbox="836 1093 1407 1218" style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 15px; background-color: #f8d7da; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>内・外貿物流部会を設置し、そこで議論を深める</p> </div>
防災に関する内容	<ul style="list-style-type: none"> ・放置艇は、港湾の利用と開発、安全面で問題を引き起こすので、收容先の検討などが必要である。 ・防災面からみて、港湾の果たすべき役割は大きいので、防災拠点についても検討が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今治港内には放置艇を收容する施設がないため、ゾーニングの見直しも含めて検討する。 ・今治の地域特性に見合った、防災拠点を検討する。 <div data-bbox="836 1532 1407 1657" style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 15px; background-color: #d1ecf1; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>防災対策部会を設置し、そこで議論を深める</p> </div>
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりをするためには、地域の方がその気になってやっていく担い手づくりが重要である。 ・「今治港へ（今治に）来たなあ」と感じられるような雰囲気づくりが必要である。 	

2-2 第2回 委員会での主な指摘事項と対応

第2回 委員会での主な指摘事項と対応

	主 な 指 摘 事 項	委員会での対応と、今後の対応
全 体	<ul style="list-style-type: none"> Resilient Port IMABARI については簡易でわかりやすい副題が欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> Resilient Port IMABARI、基本方針については簡易でわかりやすい副題を考えて各部会で提示する（各部会で議論）。
ま ち づ く り 的 観 点	<ul style="list-style-type: none"> 今治港はオールドポートなので、世界の最盛期を過ぎた港町がどのような生き方をしているのか検討してはどうか。今のうちに魅力的なまちをつくっていくことが重要である。 長期、超長期案は要らない。 フェリーの早期寄港再開が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの方向性、具体論などをまとめ今治港の向かうべき方向（目指すべき姿）として提示する（部会で議論）。 フェリーの早期寄港再開に向けた課題などを提示する（部会で議論）。
物 流 的 観 点	<ul style="list-style-type: none"> 港湾地区の拡張案については、熟度不足である。ものづくりの産業(企業)が港を使うといった観点で位置などについては考える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 港湾地区の拡張案については、企業誘致(立地)の考えのほかに貨物の集荷という考えも加え整理する（部会で議論）。 取扱貨物量の試算を基に、貨物貼付を行い集約する岸壁、拡張していく岸壁など絞り提示する（将来の今治港の像を明確にする。）（部会で議論）。
防 災 的 観 点	<ul style="list-style-type: none"> 広域災害、産業の復旧に対して今治港の役割等が整理されていない。 四国地整が発表している、基本方針、アクションプランなどを参考に広域災害における今治港の役割を明確にしていくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 四国地整の発表しているものなどを参考に、災害時の今治港の役割（広域災害時の視点、産業復旧の視点含んで）を明確にする。（中期的プランの作成）（部会で議論）。

2-3 第3回 委員会での主な指摘事項と対応

第3回 委員会での主な指摘事項と対応

	主 な 指 摘 事 項	委員会での対応と、今後の対応
全体	<ul style="list-style-type: none"> Resilience とは、現状から脱却するためにはとてもぴったりの表現であると思うが、一般的に馴染んでいない。何かイメージしやすい、一般受けする合言葉のようなものはないか？ 今治の歴史・文化・産業・等ひとつのところで学べ知ることができる施設をぜひ港に作ってはと思う 	<ul style="list-style-type: none"> 委員会終了後わかりやすさを重視し、Re—今治港として標記した。(Reには Resilient の他にも再びの Re も含んだ) (検討は出ては消えて、今回の提言書には載せていないが) 提言書の中に入れていきたい。
まちづくり的観点	<ul style="list-style-type: none"> 離島航路とあるが、しまなみ海道の開通や平成の大合併で周辺離島も今治市である。この呼び方(離島航路)は果たしてこのままでいいのか疑問が残る。いつまでも取り残された感じがする。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在も橋がつながっていない島嶼部には航路が生活の重要手段でありこの呼び方をしている。今後さまざまな航路を検討していく中で、呼称についても検討する必要があるかもしれない。
物流的観点	<ul style="list-style-type: none"> 今治市の主要産業の動向等載せているが、「主要経済指標の動向」だけは、全国の動向であるので、ここは、四国の経済状況を盛り込んではどうか？ 今治小松自動車道の開通年次はどこから引用したものか？また、何とか建設を前倒して早く開通できないか 	<ul style="list-style-type: none"> 対応する。 開通年次については国土交通省四国地方整備局「一般国道 196 号今治道路事業再評価」平成 25 年 10 月 15 日) より引用した。
防災的観点		

3 専門部会での主な意見

3-1 各部会の総括

総括 内港まちづくり部会

みなとのマネジメント

- ・施設の現況、利用状況を見ながら使用施設の集約化を図る。
- ・誰でもが訪れやすい・利用しやすい港を目指し、バリアフリー化や交通施設の集約化を図る。

日常利用の向上

- ・活発な船舶の往来（離島航路、中距離フェリー）の復活による利用者の増加を図る。
- ・レストラン船など海上での賑わいを創出する。

イベントの開催

- ・バリシップやサイクリング大会などのイベントを市内全体の「お祭り」と捉えるとともに多彩な市民団体による日常的なイベントを開催するなど、港への来訪者を増やす。
- ・外航クルーズを誘致する。

リノベーション

- ・円滑にイベントが行えるよう柔軟に富んだ港湾施設の運用方法などに取り組む。

役割分担の最適化

- ・ハードの整備は市が、ソフトについては市街地再生協議会「みなと部会」など多彩な市民団体と協働しながら活気を創出する（みなとと八幡浜などを参考に）。
- ・漁港区と連携し、今治の資源である「さかな」を活用する。

「港を拠点とした『にぎわい』と『ときめき』の回復」

活力回復の視点での方向性

多様な人材が集積する持続可能な港づくり

地域産業・今治港の競争力の向上

○新規航路の開拓

- ・周辺産業からの要望も高く、一定の貨物量を望める。
- ・今治港にフェリー航路がないために、近隣他港を使用している。

○産業の集積

- ・地域産業を支援し、工場の集積などによる競争力の強化、効率向上を図るためにインセンティブなどを与え、工場などの集積を促す。

物流施設の拡充

○コンテナ貨物

- ・蔵置ヤードへの要望が強い（危険物取扱スペース、CFS）。

○在来貨物

- ・塩分、水気の防げる上屋など整備を優先すべきである。
- ・上屋に付加価値を付加した工場などを整備すれば、現在点々としている造船関連工場の集積化、コンテナ取扱スペースが生まれる。
- ・全天候型バースと倉庫（天井クレーン）整備が望まれる。

サービスの向上

- ・今治港のメリットであるまとまりの良さ、融通性、コストの安さなどを継続していくために、地元フォワードの育成が重要である。
- ・利用者のニーズに対する柔軟できめ細やかなサービスの提供が重要である。
- ・荷役機械の冗長化は今治のメリット。PRしていくべきである。

「港を活かしたものづくり産業の活性化」

物流活動の回復の視点での方向性

地域産業を支援する四国一のサービス港づくり

災害時の情報発信などの検討

- ・発災直後の迅速かつ正確な情報伝達を可能にする施設整備、行動シナリオ・情報伝達のフォーマット（書式）など準備を進めることが重要である。

より実効性のある地域防災計画へ向けて

- ・地域特性を鑑みた地域防災計画とし、より具体化する。今治港を防災拠点性として明確化、今治圏域における海上輸送ネットワークや港湾・漁港が連携した離島の支援体制を確立する。

○地域防災計画のマッピング

- ・海上輸送ネットワークなどは図化し、誰でもわかる地域防災計画を目指す。

○協定の締結

- ・フェリー航路などは災害時の輸送路として活躍が期待されることから、平時よりこれを維持し交通機関のリタダンシーを確保しておくことが重要である。
- ・今治市の特徴である造船所との協定・利用船舶の活用も重要である。
- ・広域的連携協定も結ぶべきである。

施設の状況（性能・重要度）の把握

- ・耐震強化岸壁整備完了までの対応策としては富田埠頭を防災拠点とする。
- ・荷役機械の免震化、電源の冗長化も重要になる。
- ・岸壁復旧の優先順位など決めておくことが必要である。

適切な港湾管理体制

- ・津波発生時における船舶流出による二次被害の軽減を図るため、不法係留対策を進める。

「港を拠点とした大規模災害時の市民・企業の被害の最小化」

防災の視点での方向性

大規模地震に対応した安全・安心で信頼性が高い港づくり

3-2 各部会での主な意見

内港まちづくり部会での主な意見	
第 1 回	<p><u>まちづくりの方向性について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中心市街地再生協議会みなと部会と連携しながらやっていきたい。 ・ 大学生に海の駅についてのワークショップを行っている。 ・ 誰がやる。何をやる。ということを確認にする必要がある。 ・ 今までは海の玄関口であり、何もしなくても人が来ていた時代。これからは何かをして、人に来てもらう時代。アイデアが必要である。 ・ 港同士の連携も重要である。 <p><u>クルーズ船の誘致について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クルーズ船が寄港すれば街中も回れるし、みなとから賑やかになって良い。 <p><u>賑わいの創出について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 漁港との連携や新鮮な魚が食べられるなどの取り組みが重要である。
第 2 回	<p><u>まちづくりの方向性について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 港の活気は船舶の往来にある。よって活発な船舶の往来（フェリーの復活）について提案したい。 ・ レストラン船など海を使った賑わいが大事だと思う。 ・ サイクリストたちを立ち止まらせるには何か立ち止まらせるコンテンツが必要である。 <p><u>クルーズ船の誘致について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今治地区では超大型旅客船に対応した施設はない。中距離フェリー用の岸壁整備とともに岸壁を整備していきたい。 <p><u>賑わいの創出について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 漁港との連携は八幡浜「みなと」など手本になる。 ・ ウォーキングコースとして整備してほしい。 ・ 普段使用できる「みなと」になってほしい。
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ フェリーの寄港については望まれるところであるが、難しいというのも現状である。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 来島海峡を通過することから寄港の可能性は十分にある。 ・ フェリーの寄港に見合う貨物量をどこから捻出するかなどを詰めながら寄港に結び付ける。 ・ 燃料費の高騰などから寄港再開は難しい。 ・ サイクリングと航路、船舶を組み合わせた施策が必要である。 ・ 今治市には、個々の施策を繋げる旗振りをしてもらいたい。 ・ 港湾ビル建替後はもっと活動主体の連携を期待する（地魚の提供、イベントの開催）。 ・ クルーズについては、市民の意識も高く実現してほしい。 ・ 新設岸壁整備は、既存岸壁を活用しながらクルーズ船を誘致し、実績を作ってからになる。日常利用（フェリー）も含めて検討するべきである。

内・外貿物流部会での主な意見	
第 1 回	<p><u>新規航路の開拓</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 今治港から各港(東南アジア、中国)に行く便があれば有り難い。 今治港でも航路の開拓が求められる。 <p><u>物流機能の拡充について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> コンテナの一時保管などの融通が利くようにしたいが、場所がなく難しい。 コンテナヤードは手狭で拡張用地がない。 富田地区からのアクセスが向上すれば利便性が向上するのではないか。 <p><u>今治港の利用メリット</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 今治港のメリットはコストが安い。コストとリードタイムが重要となる。 税関手続きなどいろいろな意味で融通が利くところを求めている。 <p><u>その他</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 今治港の背後の利用企業にとって必要となる支援をしていく。 特区については、国の施策の問題もあるので難しいのではないかと。
第 2 回	<p><u>新規航路の開拓</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 台湾、中国航路を視野に入れ始めたところ。位置的には今治港は不利である。 現在出荷時には他港を使用しているが、今治からもフェリーが出れば利用する。 <p><u>物流機能の拡充について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 単純に雨風をしのぐ上屋ではなく、鋼材に加工(ショットブラスト、防食プライマーなど)ができるなどの付加価値のあるものが望ましい。 台風時などでも、塩害の起きにくい施設が必要である。 鋼材加工を港湾背後で提供できるのであれば、工場は港湾背後に移るであろう。 鋼材加工場が移転すれば、その用地をコンテナ蔵置用地に活用できる。 デバンニングできる施設(CFS)が必要である。 湾岸に一般車両が通行できない港湾専用の道路を整備すれば、使い勝手が良い。 危険物の蔵置場があると、今治港をさらに利用する。 <p><u>人材の育成について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 今治港のメリットであるまとまりがよく、融通が利く、コストが安いなどを継続していくために、地元フォワーダーの育成が重要である。
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> コンテナの取扱貨物量は伸びているが非常に厳しい局面。夢を追うのではなく近隣港、国の施策を理解すべきである。 鋼材：全天候型バースと倉庫(天井クレーン)整備を急ぐべきである。 企業の集積を図って、コスト縮減、競争力を高めていくことは今治の価値を高める。 港湾管理者と、利用者の意思疎通を図った上での施設整備が重要である。 危険物取扱ヤードがあると、競争力向上する。 荷役機械の冗長化は今治のメリット。PRすべきである。

防災対策部会での主な意見	
第 1 回	<p><u>災害時の対応</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 船が着岸するためには、津波の引き波によって海上に散乱した瓦礫の撤去（航路啓開）が必要である。 港へのアクセス道路も重要である。 被災時の保管、仕分け、配送網などについて自治体と事前に協定を結んでおくことなどのソフト施策も重要である。 <p><u>今後の防災対策について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 港だけでは不十分。道路の確保や島嶼部の人をどうするかといった中で、今治港（アクセス道路を含め）の役割を検討していく必要がある。 今治の中で完結できる仕組みが必要である。そして拠点としての機能を保持していく必要がある。 フェリーは貨物船のバースでも対応可能なので、蔽敷のバースが耐震化されれば対応可能である。
第 2 回	<p><u>災害時の対応</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 地盤沈下から海水流入が発生し、浸水被害をもたらす。 停電・通信手段が輻輳する状況下、統一された書式を用いての安否確認や被害程度の把握が効果を発揮する。 災害発生を迅速かつ正確に周知するための施設の整備が重要である。 <p><u>今後の防災対策について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 統一された書式などを早急に作って使ってみること（訓練の実施）が重要である。書式はその都度改良を重ねればよい。 離島などへの物資輸送ネットワーク（協定の締結など）を早急に整備すること。どんな船でも参加させることで、参加する方もモチベーションの向上につながる。 現在休廃止された航路も災害時には重要な交通手段であることを念頭に航路の再開、復活を望む。 耐震強化岸壁が整備されるまでの対応を考える必要がある。 耐震強化岸壁の次に復旧させる岸壁の順番などを決めておく必要がある。
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> 広域的な論点は今後の課題とし、本部会では「今治圏域」の防災の観点で議論する。 今治市での完結にこだわるのではなく、広域的な（瀬戸内海を対象とした）観点を視野に支援体制を考えることが重要である。 航路、フェリーにこだわるのではなく、「港が健全に使えること」が重要であり、健全に使用できればどんな船でも来てくれる。 造船所で使われているバージ船の活用について検討すべきである（もちろん造船所の協定必要）。 耐震強化岸壁が供用するまでは、富田埠頭を災害時の拠点とする。 富田地区を暫定的に使用するのであれば、荷役クレーンの免震化や電源の冗長化が必要になる。 災害時の輸送パターンを複数考え、順位付けしておくことが重要である。 しまなみ海道が使用可能でも支援物資輸送は船舶を使用する。 プレジャーボート対策は違法・合法含め検討することが重要である。